

「霞ヶ浦導水事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 26 年 3 月 2 日（日）13:14～13:25

霞ヶ浦導水工事事務所 2F 第一会議室

発言者：意見発表者 2

土浦●●●に住む●●●●●です。霞ヶ浦導水事業の素案に対するパブリックコメントを述べます。この素案というのは、なんと 374 ページあります。そのうち 4 章の 2 について私は中心的に述べます。つまり水質浄化の観点からの検証です。なぜならば霞ヶ浦導水事業の第 1 の目的は、霞ヶ浦の水質浄化、導水による霞ヶ浦の希釈、浄化というのは目的の第 1 になっているからであります。

まず、那珂川あるいは利根川という川は、こういうふうに流れています。流れている川はご存じのように酸素を取ってこういうふうにきれいです。そしてそれが湖に入る。停滞した湖に入ればこのようにアオコが発生します。ここが基本的に流れる川の水を停滞した霞ヶ浦にもってきたらどのようなことが起こるかをこの例が端的に示しています。これは、兵庫県猪名川郡にある一倉ダムというところに流入する川の上流とそれが入ってきたところの湖です。

ご存じのように 1973 年に霞ヶ浦でアオコの大発生がありました。2011 年これにもまた、大発生がありました。霞ヶ浦は 73 年にアオコの大量発生があり養殖コイの大量斃死がありましたけれど、これは窒素リンが多いために起こってくる植物プランクトンによる有機性の汚濁であります。それで茨城県は県条例で富栄養化防止条例、窒素リンを制限しようということで始まりました。で、色々な事業を行われますけれども、これは霞ヶ浦流域を対象としたものであります。で、窒素はこのようにありまして高いレベルであります。

これは、霞ヶ浦でのリン。リンを少なくするために大規模な浚渫が行われました。特に平成 4 年から行われます。大規模なのは、ところをご覧のように始まった途端にどんどんリンが上がっています。

これはちょっと前の話、いま霞ヶ浦水質保全計画、これは湖沼法に則って知事が作成しなければいけない保全計画の第 4 期、現在は 6 期です。ですけれど、新しいところでこういったお金の額が見えませんが 4 期のお金をここに表しますと、下水道整備事業でこれだけ、浚渫で、あの効果の無かった浚渫で 440 億円、現在凍結になっている霞ヶ浦導水に 343 億円のお金を使おうとしています。これがほとんど家庭下水等も入っていますけれども主たる事業者は国土交通省と茨城県であります。

それでこのような導水工事の大きな巨管が、もうトンネル造ってできていますけれども今なら中止はまだできます。会計検査院が 20 年 1 月に完成している利根導水路、これも完成して 16 年から 17 年になります。この導水路を単体で有効に活用することを、検討することを指摘事項の中で言っています。

しかしながら、その 1 月に指摘を受けていながら 3 月、これは茨城県、栃木県、千葉県で相変わらず第 6 期の霞ヶ浦水質保全計画の中で霞ヶ浦の水質浄化を行う計画ですと言っている。24 年 1 月には会計検査院は同事業の効果、必要性の再検討を十分にやって今までどおりでない違ったことを少し考えろとこう言ってるんです。

では、なぜ私が霞ヶ浦の水質を悪化させるというか。1 つは導水の水質が霞ヶ浦よりも悪いから。2 番は導水の流入負荷量総量は膨大であるから。3 番目はさっき言った流れと停滞した湖では停滞時間が長いとアオコが発生する。停滞性を短縮できないから。したがって、アオコの発生を抑制できない。つまり水質を悪化させても浄化はできないということ。理由をこれから述べます。

これは利根川の窒素です。那珂川はこのくらいです。霞ヶ浦はここにありますが。霞ヶ浦が一番低い。利根川の全窒素、窒素の濃度は霞ヶ浦の2.48倍、リンは霞ヶ浦の1.33倍だから物理化学的にも普通の高校生でも分かる希釈による効果ということはありません。

これは今度那珂川、那珂川の水もきれいですけれども窒素は1.45倍、霞ヶ浦1.6倍、窒素を希釈によって浄化するという事は、霞ヶ浦の窒素を希釈して浄化することは那珂川のきれいな清流といえどもできません。那珂川の全リンは、これは霞ヶ浦より低いです。ですから希釈効果はありとみてもよいです。しかし中身が問題です。アオコの大好きな、アオコの成長を促進する無機オルトリン酸がいっぱいあります。

次は総量負荷。導水によって流入する負荷は現行流入量に窒素でもって1日当たり4.46トン、35%を負荷します。そして、もしこれが、導水がつながったらこれ一生懸命霞ヶ浦は第5期第6期と流入負荷量の制限をしているんですけれども寄与率は26%に、つまり導水は窒素についていえば巨大な汚濁源になるのです。

これはリンです。リンも現行流入量に対して26.5%の負荷を与えます。その割合は生活排水について2位になります。

次は3番目の問題。水を入れれば水の回転が良くなって滞留時間が現在200日で1回替わります。しかしそれが、導水すると150日になる。これは50日間短縮されたので、まあその点では短縮。ところが21週150日このものはアオコが出なくなるような状態になるかということ導水による滞留時間の短縮はアオコの発生にとっては焼け石に水です。富栄養化、つまりアオコの発生等が問題となる滞留時間の目安は2週間以上とされています。21週間ですから焼け石に水であります。

以上によりまして、導水事業による霞ヶ浦の水質浄化は科学的にできない。これは非科学であります。これは今まで述べましたように希釈できない。かえって濃度は増加する。流入負荷量は増大する。停滞性は打破できない。したがって、アオコの発生はできない。水質悪化。

霞ヶ浦導水事業を終わらせるためには水質浄化の原点に立つ必要があります。水質浄化の原点というのは霞ヶ浦はどこから汚れているのかということ霞ヶ浦と流域を繋ぐ56本の川、それが流域から搬入してくるものによって汚れているのです。ですから流域の管理することをきっちりとやることなんです。

で、この、そういった浄化の原点に立つと霞ヶ浦の水質浄化になるのだという国土交通省の、私が今まで述べたように偽りの科学的な理論、この原案を丸呑みにする研究者、学識経験者、委員、これが素案の中に名前を連ねています。そういう方々は間違った科学的論理に丸呑みにしているのです。もうひとつ重要なのは住民のためになるのか。霞ヶ浦がきれいになって魚もたくさん捕れて飲料水も美味しくなるとなっている住民のためになるのだという国土交通省の作られた社会的要請。これをまず受けているのが県であり流域当該市町村であります。さらに言うならば、流域市町村の中でも県が言うなら国が言うなら市長が言うなら正しいだろうと思って住民のためになることだからよいのではなかろうかといっている。だけれど、これは先ほども述べましたように総額で1900億円、すでになんぼか使っていますけれども、さらにこれは2000億円を軽く超えるであろうとされています。現在は幸い凍結になっているけれども、この無駄な税金はやめましょう。導水事業は中止にして、今中止にすれば中止にすることの方がベターです。そうすれば住民の水道料金あがるなんていう不利なことも起きません。あるいはまた、アオコで悩まされるということも起こらないと思われま。

まだ6分あるんですけれども、私の言いたいことは以上でございます。